

「世界平和の祈りは完全である」と信じて祈る

2011年1月16日 於：神奈川集会

「世界平和の祈りは完全である」と信じて祈る

様々な宗教団体の方々に、各々の伝統ある祈り言や行事に「世界平和の祈り」を加えていただくことについては大変喜ばしいことで、「世界平和の祈り」がその宗教団体の祈り言の付け足しであっても、それは結構なことですし、頭を下げてでもお願いしたいところです。たとえば「南無阿弥陀仏、世界人類が平和でありますように」と祈っても結構ですし、「イエスさまに感謝いたします。世界人類が平和でありますように、アーメン」と祈っても、それは構わないのです。しかし、「世界平和の祈り」の本家本元の白光真宏会が「世界平和の祈り」に対して新たに祈り言や行法を加えるということは、「世界平和の祈り」の完全性を疑い、五井先生のみ教えを疑うことになるのです。

白光真宏会の行事を数式に現すと、こうなります。

「世界平和の祈り」≠「我即神也・人即神也・人類即神也」

「世界平和の祈り」＋「我即神也・人即神也・人類即神也」＝完全 (Perfect)

「世界平和の祈り」＝不完全 (Imperfect)

二つを合わせて完全になるということは、一つだけでは不完全であるということに他なりません。二つの行をやっている人は、「世界平和の祈りは不完全である」と宣言しているわけです。そう内心思っているのですから、いつまでたっても「世界平和の祈りの完全性」が現れてくるわけがありません。

それに対して、私たちは「世界平和の祈り」＝完全 (Perfect) と信じているのです。「世界平和の祈りに何も付け足す行はない」「世界平和の祈りただ一つで完全である」と、世界平和の祈りの完全性を信じて祈っているのですから、世界平和の祈りが持っている本来の完全な大光明が何の業想念の妨げもなく出現してくるわけです。この原理で、「世界平和の祈り」単独の祈りの方が、他の行法を加えて祈るよりも神性開発の効果がより急速に現れてくるのです。

そんな理屈はともかく、実際に「世界平和の祈り」を祈りますと、守護の神霊の力によって自然に安心立命の境地に導かれるのですから、それを一度体験しますと、「ああ、私は世界平和の祈りだけで充分。世界平和の祈りの他に必要なものは何も要らない」という心境になるのです。私はその体験者なのです。「世界平和の祈り」の完全性を信じて、「世界平和の祈り」に全託して下さる人が多くなることを私は祈り続けているのです。

「世界人類が平和でありますように」と祈ることは勇気なのだ！

「世界平和の祈り」を侮辱する者は、五井先生を侮辱し、「世界平和の祈り」を授けて下さった大神さまを侮辱するわけなのです。私たちだけを侮辱しているのではないのです。

この世の中には、いろんな多種多様な考え方や意見があってもいい。ところが、自分の意見が正しいからといって、相手に自分の意見を押しつけてはいけません。相手が納得していなかったら、それ以上押しつけてはいけません。

「世界平和の祈り」を単独でやろうと、他の行法を組み合わせやろうと、それは各自の自由じゃありませんか。私たちは、五井先生から教えていただいたように「世界平和の祈り」だけを単純に行じたいのです。それを「我即神也」などの行も加えてやらせようというのは、たとえばアイスクリーム店で「バニラのアイスクリームだけでいいです」と言っているのに、お店の人がいろんなトッピングをかけようとしてくるようなものなのです。

広島原爆ドームの横で、WPPC広島の人たちが「世界人類が平和でありますように」と祈り、世界各国の平和を祈っていました。それを見ていて、この祈り言は素朴で純粋で飾りっ気がなくて自然で、人類愛の祈りを素直に表現している素晴らしい祈り言であると、誰しも改めて思いました。

「世界人類が平和でありますように」というこの祈り言から、人類の心は一つに結ばれ、神と人が一体化され、この地球に平和が実現するのです。こんなに大切な祈り言を肉体知で捨ててはいけません。私たちは五井先生の教えを守り、「世界平和の祈り」を守り、後世へと「世界平和の祈り」を継承してゆかねばなりません。そのためには、いかなる業波動にも恐れず挫けない真の勇気が必要なのです。皆さんも「世界平和の祈り」を祈り、業波動に屈することなく、真の愛と勇気を発揮なさってください。

愛して愛して愛しぬこう

「世界平和の祈り」を皆さんと一緒に祈るのはほんとうに楽しいです。

五井先生のお歌に「世界平和 祈るは 神のみ心の ひびきにあれば 祈る楽しさ」という短歌がありますが、「世界平和の祈り」を共に祈ることは、言葉では言い尽くせない魂の深い喜びを感じます。一人で祈るのも楽しいけれど、二人で祈った方が楽しいし、多くの人と一緒に祈るのはもっと楽しいです。気持ちの合った仲間と同じ祈り言を共に祈ることによって信仰心も高まります。一人だけで祈り続けるのは、孤独に打ち勝たねばならず、大変な勇気が必要ですが、仲のよい法友と一緒に祈り続けていれば、信仰心を保ち続けることが容易になってきますし、楽に祈ることができます。それは、湿って燃えにくくなっ

た木材の一片も、赤々と燃えている大きな焚き火の中に放り込めば再び燃えるようになるのと同じです。集団で祈ることによって、一人一人の弱い信仰心も熱く燃え上がるようになるのです。

「世界平和の祈り」は、何という大きな愛なのでしょう。一人の人間を愛する時も心に明るい光が灯るのですから、世界人類を愛する時には太陽のように明るい光が私たちの心に灯るのです。私たちは世界の紛争情勢を常に注目しておりますが、中東地域は未だに戦争状態が続いておりますし、日本近海の北朝鮮と韓国の間でも依然として緊張状態が続いているのです。このように現在の地球人はまだまだ神の子とは呼べない動物に近い状態で、地球は平和にはなっていないのです。私たちは地球を平和にするために生まれてきたのですから、自分自身の幸福と共に、常に世界の平和を考えねばなりません。世界の平和がなくては個人の幸福も成り立たないのであることを認識しなくてはなりません。

私たちの平和運動は、怒りや憎しみで、拳を天に突き上げてデモをする必要はありません。愛一念の明るく穏やかな表情で、人類に愛の祈りを叫び続けていけばよいのです。私たち一人一人の心が愛と調和に満ちた心境でいなくては世界を平和にすることはできません。私たち一人一人の愛の心が、愛の光明が、世界を照らし、世界を光明化し、世界を平和にしてゆくのです。私たちは、どんなことがあっても人を愛してゆきましょう。憎んだり怒ったりしたら、消えてゆく姿にして神さまに赦していただき、愛して愛して愛しぬいてゆきましょう。人に愛されなくても、私たちは人を愛してゆきましょう。

【参考】 憲法九条は神さまから授けられた日本の天命

憲法九条はアメリカの都合のよいように押しつけられたという見方をする人もありますが、表面上はそうに見えながらも、実は神意で、神さまから日本に与えられたものであるのです。日本のタカ派と言われる人々は、アメリカから押しつけられた憲法が、自分たち日本人が決めたものではない事実日本人としての誇りを傷つけられる気がして、改めて日本人の手で憲法を作り直したいと思っているわけですが、憲法九条は変えるべきではありません。憲法九条は、アメリカから押しつけられたように見えても、アメリカ人の手を通しただけで、真実は神様から授けられた憲法であるのですから、「これは神さまから授けていただいたのだ」と思えば、日本人としての誇りも傷つきません。どっちみち、日本人の大半は「もう戦争はこりごり」と思っていますし、若者たちは「軍隊なんかには入りたくない」と思っているのですから、憲法は変えられません。

今では、アメリカ政府内部では、秘かに「日本に平和憲法を与えたのはアメリカにとって損だった」と歯ぎしりしている議員も少なからずいるのです。日本に平和憲法を与えただけに、日本を守るのはアメリカの軍隊で、「アメリカは日本の番犬だ」とののしられ、日本に軍隊がないばかりに、湾岸戦争のような時にも日本に軍事的に助けてもらえず、血を流すのはアメリカ人で、日本人は血を流さずにすむ、せめて日本からは金を出させようと、こう思っているアメリカの議員もいるのです。

また、「日本が米国債を買わされ続けている」のはその通りで、それにしてもアメリカは日本よりも威張った態度をしています。しかし、日本がアメリカのために経済的に尽くしていれば、その積んだ徳はいずれは日本に還ってくることになります。今はまだその徳が還ってこないから日本が損をしているように見えるのですけれど、いずれは日本も対等以上の強い態度でアメリカに発言できる時期がやってきます。その時初めて「日本に米国債をあまりにも多く渡しすぎた。しまった！」とアメリカは悔しがることになります。そうした深慮遠謀を持った国会議員や官僚が日本にいるわけです。だから、日本は得するばかりで少しも損をしてはいないので、憲法も変える必要はないというわけです。

日本が平和でありますように
アメリカが平和でありますように
世界人類が平和でありますように

質疑応答 1：正しい行じ方によって祈りの効果が発揮される！

【ご質問-1】 [心境が中々進まないのはやり方が間違っているのが原因か]

自分の遅々とした歩みを鑑みるに、これは五井先生がいうように、何か「やり方が間違っている」のかと考えています。森島先生、このような遅々として進まず、「生まれ出づる悩みや不安」といった心境をどうしていったらよいのか、お教えいただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

【お答え-1】 [守護の神霊に全託して来なかったことが原因。真剣に祈ること]

ご自分の内面を正直に見つめ、悩みや不安が消えていない自分の心境を正直に話されている、そうしたあなたは、自分の魂の在処を知らずに、「私は神の子である」と繰り返し宣言している偽善者の人々よりも遙かに高い心境にあるのです。あなたのような正直な人を神さまは非常に喜ばれるのです。

あなたが推察している通り、心境が遅々として進まないのは、五井先生の教えにあるように「何かやり方が間違っている」からです。あなたのおっしゃるように、五井先生の教えを守りながら、まだまだ悩んでいて心境が進まない人がたくさんいるために、強い確信を持って「世界平和の祈りよりもこちらの方法がすぐれているのだ。これは五井先生からの新しい神示である」と教えられると、気の弱い信者さんたちは、そうした強い確信を持つ宗教指導者に文句なしに従って行ってしまうのです。たとえば宗教団体の人数を聞いて、数の多い方に入信するというまったく気の弱い人も世の中には存在するのです。

五井先生が教えて下さったように、「世界平和の祈りを祈り、五井先生のみ教えを守りながらも、何年たっても心境が遅々として進まないのは、何かやり方が間違っているから」なのです。もちろん過去世の因縁が消えるには数十年数百年とかかるわけですから、過去世の業想念がすべて消え去るまでには現実の運命は完全には善くなりませんが、正しい宗教を正しく行じていけば、早ければ三カ月、遅くても三年で本心開発の効果は目に見えて

現れてきますし、それに伴って自然に現世利益も授かるものです。

「五井先生の教えは正しい」としますと、後は信仰する人の行じ方が「何か、どこか、やり方が間違っている」から効果がないことになります。一体やり方のどこが間違っているのか？ それを教えるのが私の天命なのです。そこで、どこが間違っているのかと言いますと、守護の神霊に全託していないことが、効果が現れない原因なのです。自力と他力の両方を同時にやっているがために神への全託が為されず、守護の神霊の力が百パーセント発揮されず、本心開発の効果も現世利益も現れて来なかったのです。

「人間は本来、神の子であり、人間は内部に神性があり、無限の能力を持っているのだから、外部の神である守護の神霊に頼ってはいけない。外部の守護の神霊に頼ると内部神性の力がそれだけ弱まってしまう。神の子である人間が守護霊さまにお願いするようではいけない」という教えを宗教者から教えられ、そう思っておりますと、その想念が邪魔をして神への全託ができないのです。そうした教えは、正しいように聞こえますが、実は誤っているのです。それでは、その教えのどこが誤っているかということ、守護の神霊は外部神性のようですが、実は人間の内部神性の働きであるのです。そして、分霊は内部神性である守護の神霊と一体になることによって、分霊としての本来の神性を完全に発揮できるように法則としてつくられているのです。守護の神霊を認めず、内部神性の力だけで、神の子になろう、神の子になろうとしても、それではいつまでたっても神の子の姿を現わすことは不可能なのです。

言いかえますと、五井先生のみ教えを学び、「世界平和の祈り」を祈りながらも、心境が遅々として進まず、本心開発の効果も大してなく、現世利益も授からなかった理由は、「守護霊さま、お願いします」と真剣に祈らなかったからなのです。たとえばあなたが会社の上司で、部下が「この企画をしたい」としょっちゅう繰り返し発言していても、それだけでは、あなたの心は真剣に部下の発言に耳を傾ける気持ちにはなれないでしょう？ 部下があなたの席にやってきて、真正面に顔をあなたに向けて、「この企画をぜひ私にやらせて下さいませんか。部長、よろしく願いいたします」と頭を下げて言われたら、あなたは初めて真剣に部下の意見に耳を傾けて、「よし、部下の力になってやろう」と思うことでしょう。

守護霊さまもそれと同じなのです。あなたが真剣に守護霊さまに頼まなければ、守護霊さまも、本気になってあなたのために奔走してやろうとは思いません。なぜなら守護霊さまにとって、あなたを二十四時間眠らずに加護し、あなたの運命を善くしようと働くことは大変疲れる仕事であるからです。守護霊さまが何の報いも求めずに一方的な愛であなたを陰ながら一生懸命に悪から守ろうとしているのに、「おれは無限の力を持っている神の子なんだ、守護霊の力なんか借りる必要はない」と傲慢な態度でいたら、守護霊さまはどんなにか悲しいことでしょう。守護霊さまは悲しくて涙を流されているのです。それでも守護霊さまは、かわいい子孫であるあなたを庇い、守ろうと尽くされているのです。

こんなに強い愛情を持った守護霊さまを、あなたはなぜ無視して、感謝しないのですか！形式的に感謝しただけで、「おれの力で、おれの運命をつくってみせる」などと傲慢なことをなぜ言えるのですか！ 守護霊さまにそんな傲慢な態度でいて、本心開発も現世利益も授けられるはずがないではありませんか！

五井先生が「やり方が間違っている」と教えて下さっているのはそこなのです。その点なのです。今まで五井先生の教えを行じ、「世界平和の祈り」を祈っても、心境に変化がなかったのは、守護の神霊に全託していなかったことが原因なのです。そこに気がついたら、今日からはこのように祈ることです。

守護霊さま、今までの私の傲慢な態度をどうかお赦し下さい。

守護霊さま、あなたさまに私のすべての運命を委ねます。

守護霊さま、私の本心が開発されますように、どうぞ私をお導き下さい。

守護霊さま、あなたさまのお力なくして世界を平和にすることはできません。

守護霊さま、世界人類が平和でありますように、どうかお願いいたします。

守護霊さま、お願いします。

守護霊さま、ありがとうございます。

守護神さま、ありがとうございます。

五井先生の教えは真実の教えです。このように正しく五井先生のみ教えを行じれば、本心開発の効果が現れないわけがありません。今日からのあなたの祈りは神のみ心と合致した真実の祈りとなるのです。「世界平和の祈り」本来の大光明があなたの心を照らし、あなたの生活を輝かしてゆくことでしょう。

質疑応答 2 : 守護霊さまへの祈り方

【質問-2】 [神様はどこにいるのか、神様を思う時はどこに想いを持ってゆけばよいか]

神様（守護霊様）はどこにいらっしゃるのですか？ 人間の内部に神様（守護霊様）がおわすとのお話もありますし、もしも外部にいらっしゃるのなら、どの辺にいらっしゃるのでしょうか？ 神様を思う時に想いをどこへもっていけばよいのか常々疑問に思っています。

【お答え-2】 [自分の目線よりもやや上に神様がいらっしゃると思ってお祈りするのがよい]

神を宇宙創造神とすれば、神はどこにでもおわす、ということになります。守護霊に限定すれば、霊界にいながら、被守護体の肉体人間を常に見守る位置にいるのです。人間の内部神性とは守護の神霊を含めたものですが、その内部とは、肉体の身体の皮膚の内側という意味ではないのです。肉体とは別の霊界の分霊の内に守護霊が存在しているという意味であるのです。

従って、守護霊は肉体人間の外部にも内部にも働いていると言ってよいわけですが、祈る時の対象として、守護霊のいる位置をどこか一カ所に定めなくては心が落ち着きません。そこでどう祈ったらよいかと申しますと、正座しても立っていても、守護霊に祈る場合、目線の高さよりやや上の前方に「守護霊さまがいらっしゃる」と思って祈るとよろしいです。また、「五井先生のお写真」「五井先生の色紙」「世界平和の祈りの額」などをお祈りの対象としている時には、そうした物に守護霊が宿るのですから、正座した時に目線よりも上にそれらを置いて祈る事です。座った位置の目線よりも下に守護霊や神仏を置いてはいけません。

【ご質問-3】〔守護霊様にお願いしすぎて守護霊様の負担になることはないか〕

「守護霊様おねがいします」といつもお願いしていると、守護霊様の負担にはならないのですか？ 守護霊様に想いがかかりすぎて、守護霊様が私の思いを払うのに一苦勞などということにならないかと心配です。

【お答え-3】〔守護の神霊をひたすら頼む人の方が護りやすい〕

そのご心配は要りません。「守護霊さま、お願いします」といつも全託していると、守護霊の負担にはなりません。むしろ守護霊にとっては、守護霊の方を向いてくれる人間はとても守りやすいのです。被守護体の人間の運命を導き、悪い憑依霊が取り憑かないように守るのが守護霊の仕事なのですから、守護霊に常に想いを向けていることが大事なのです。

守護霊は肉体人間の業波動を身に受けて浄めますが、余りの業波動に汚れるような時は、守護神に助けを求めまして、守護神の光明を浴びて自らの霊体を浄めるのです。五井先生は講話の中で、「私が皆さんの統一指導をして浄めている間に守護霊さんは（霊界にある）滝を浴びに行って来るんです」というようなお話をなさっていましたが、私たちが守護霊に浄めてもらうように、守護霊は守護神に浄めてもらえるので、少しも心配は要らないのです。

但し、余計な想いを出すと、守護霊は苦勞をします。「世界平和の祈り」だけを祈っていれば守護霊は楽なのに、真理の言葉に把われて「我は神なり」と唱える行をしたり、心の法則論に把われて欲しい物をイメージして念じたりしますと、そうした余計な業想念の想いまでも浄めなくてはなりませんから、お仕事が二倍三倍にも増えて、私たちが仕事で毎日夜まで残業するように、守護霊も大変苦勞をすることになるのです。ですから、守護霊に余計な苦勞をかけたくなかったら、「世界平和の祈り」一念に徹することです。そして、守護霊に感謝の祈りを捧げていることが守護霊に活躍していただく最良の方法であるのです。

【ご質問-4】〔洗礼のヨハネの方が守護霊よりも却って格が上ではないのか〕

聖書講義に、「洗礼のヨハネは人間の女性の生んだ最高の人間であるが、天使（守護霊

様？守護神様？）には全然敵わない」との記述がどこかにあったと記憶しています。これが私にはどうしても理解できません。守護霊様は人間一人に最低一体ついているので、現在では地球上に数10億体いらっしゃるようになります。これに比較して、洗礼のヨハネは、彼がいなければキリスト教自体が存在しなかったとの話もありますので、働きまたは霊力的に言っても、守護霊様より洗礼のヨハネの方が上だと思うのですが。洗礼のヨハネは肉体界を救うためにこの肉体界に出ていらっしゃった方なのでしょうから、多分もともと守護神様クラスの方なのでしょう？

【お答え-4】〔天命を授けるのはあくまで守護の神霊で、人間が選べる事柄ではない〕

あなたのおっしゃるように、神さまは元々は一つなのであり、守護の神霊として分かれても、その働きが異なるだけで、どちらの神さまが上だとか下だとかと比較することは無意味なことであるのです。洗礼のヨハネはイエスにキリストを自覚せしめた偉大な先覚者であります。そのヨハネを背後から指導しているのは、やはり守護の神霊なので、ヨハネと守護の神霊を比較するならば、器としてのヨハネよりも守護の神霊の方がより偉大なる存在と見るべきでしょう。

聖書には、こう書かれています。

【新約聖書ルカ伝第7章26節～28節】（マタイ伝第11章11節にも似た文があります）

我（われ）なんぢらに告ぐ、預言者（よげんしゃ）よりも勝（まさ）る者なり。

「視（み）よ、わが使（つかひ）を汝の顔（かほ）の前（まへ）につかはす。

かれは汝の前になんぢの道（みち）をそなへん」

と録（しる）されたるは此（こ）の人なり。

われ汝らに告ぐ、女（をんな）の産（う）みたる者の中（うち）、ヨハネより大（おほい）者はなし。

されど神の國にて小（ちひさ）き者も、彼（かれ）よりは大（おほい）なり。

この聖書の記述を読めばお分かりのように、「洗礼のヨハネは天使には全然敵わない」という意味で、イエスは洗礼のヨハネのことを述べているのではありません。イエスは、洗礼のヨハネの天命と自分の天命は違うものであると言いたかったのであります。既に多くの民衆から尊敬され信仰されているヨハネは偉大な預言者であるが、洗礼のヨハネの場合はあくまでも神霊から伝えられてくる声を民衆に伝える役目であって、自らが神としての権能を持ったイエスとはまるでその働きが異なるのだと、イエスは明確に説いたのです。イエスは、洗礼のヨハネのように神霊の声を聴いて動く霊能者ではなく、自らが神霊としての立場で神の教えを説いていたのです。

洗礼のヨハネなくしてイエスはキリストにはなれなかったわけですから、その意味から言えば、洗礼のヨハネとイエスは光の兄弟であり、同等の人格であって、その働きが異なるだけと言えますが、「洗礼のヨハネがいなければキリスト教が存在しなかった」からと言って、「守護の神霊よりも洗礼のヨハネの方が上である」とは言えないのです。

守護の神霊が、洗礼のヨハネをイエスのために道開きの役目として結果的に選んだのでありまして、他に適当な人がいれば別の人を選んだわけです。天命を受け、天命にふさわしい人を選ぶ采配はあくまでも守護の神霊の側が司っているのでありまして、肉体人間側が自分勝手に守護の神霊を選んだり神の仕事を選ぶことはできないのです。たとえ洗礼のヨハネが多くの人々から尊敬されていたとしても、神の眼から見てこの仕事にふさわしくないと判断されたら、ヨハネは即座にその役目から外されて、神に使われることはなかったでしょう。

神さまからのメッセージを伝える霊能者はあたかも神の如く人々からは尊敬されるものですが、しかし、霊能者はあくまでもメッセンジャーであって、まだ神との距離があるわけですから、神の子そのものとは言えないのです。イエスは洗礼のヨハネのような神の声を伝えるメッセンジャーではなく、自ら話す言葉が神の子としての言葉であり、自ら行なう行為が神の子の行為となっているのです。神の声を預かって民衆に伝える霊能者よりも、自らの声が神の声であり、神の国から来たイエスの方が偉大であるのは当然なことです。その事実を洗礼のヨハネも知っていて、「自分は救世主キリストではない。ただ主の道を切り開いてゆく者だ」と謙虚に自分の天命を説き、「イエスに従ってゆくように」と自分の弟子たちにもしきりに勧めていたのです。肉体人間は、どんなに偉い人でも、あくまでも守護の神霊の声を伝える器であり、守護の神霊の加護なくしては働けないのですから、守護の神霊を肉体の器よりも下に見てはいけません。

私たちにどの神霊がつくかは守護の神霊側の判断によるのでありまして、私たちは高級神霊に愛され守られるように常に自己の行為を反省して、神を尊び、神に祈り続けてゆく必要があるのです。ちなみに、洗礼のヨハネは現在救世の大光明の聖者の一人としてイエスと共に働いておられます。

質疑応答 3 : 正しく強い信念は世界平和の祈りから生まれてくる

【ご質問-5】 [教義にある強い信念を念力的にならずに起こすにはどうしたらよいか]

『人間と真実の生き方』の中で、「消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起こし」とあります。悪い方へ考えてしまうような時に、消え去るのであるという“強い信念”を念力的にならずに起こすにはどのようにすればよろしいのでしょうか？ また、強い信念とはどのようなものを言うのでしょうか？ どうぞ教えて下さい。

【お答え-5】 [守護の神霊を信じ、「世界平和の祈り」を祈り続けていればそれでよい]

[信念と念力について]

信念と念力は中々判別が難しいのです。

「信念の魔術」という場合の信念とは念力のことでありまして、五井先生の言われる信念ではないのです。信念とは元々は宗教の用語で、神の大愛を信じる念の意味であり、信念を持つことは正しい宗教の行為と言えるのですが、最近では信念という言葉が宗教と切り離されて、念力の同義語として多くの自己啓発の本に使われるようになってしまったので、信念という言葉を読んだ時には、正しい信念の意味で用いられているのか、念力の意味で用いられているのか、をしっかりと見分ける目を持たねばなりません。

また、自己の本心を信じて運命を切り開いてゆくという意味で、「自己の信念を貫く」という言い方もありますが、これは正しいのですが、ともすれば神のみ心とは切り離されて「自己の我欲を貫く」という意味に使われることもあり、やはり念力と間違えることもあるので、信念とは「守護の神霊の大愛と絶対力を信じる想い」という他力的な意味に解釈しておきます。

なお、教義の『人間と真実の生き方』では、五井先生は「である」体を用いていますが、「いかなる苦悩も消え去るのである」という文は、「いかなる苦悩も消し去る」という意味ではなく、「いかなる苦悩も消え去ることになる」という意味であり、「今から善くなるのである」というのは、「今から善くなる」という文を「である」体に直したもののなのです。つまり、「私はやるんだ」という言い方をせずに、「守護の神霊のお力によって成る」という言い方をしますと、力もうにも力めなくなり、力みが取れて念力とはならず、神を信じる信念となるのです。

【業想念否定形信念と本心肯定形信念】

信念には二つの形式がありまして、業想念を否定する業想念否定形信念と、本心を肯定する本心肯定形信念とがあるのです。この二つは表現が正反対であるだけで、意味は同じです。

業想念否定形信念の具体例は、「いかなる苦悩も消え去ることになる」という言葉で、守護の神霊によって、いかなる苦悩も消し去っていただき、いかなる苦悩も消え去ることになる、という意味であり、それは自力で何も為さずとも、無為にして、神はからいで「成る」のですから、念力にはならないのです。また、本心肯定形信念の具体例は、「今からよくなる」という言葉でありまして、これは自力で今から善くするのではなく、守護の神霊に自己の運命を委ねて、守護の神霊の大愛によって自己の運命を善くしていただくことで、今からよくなるのですから、「成る」という言い方をすれば念力にはならないのです。

「人間の苦しみは永劫に消えないものだ」とか「世界は永遠に平和にはならないさ」という考えを持っておきますと、業想念の存在をいつまでも認め、本心の現れを否定しているのですから、その人から苦悩が消え去ることはないし、その人はいつまでたっても平和な世界に住めないのです。「いかなる苦悩も消えてゆくのさ」と業想念を否定することによって、その苦悩は消えてゆくのさし、個人的には「必ず自分の運命は善くなる」と本心の現れを肯定し、人類的には「必ず世界は平和になる」と本心の現れを肯定してこそ、個人の運命は幸福となり、世界は平和になることができるのです。

業想念を否定しただけでは弱いですし、本心を肯定しただけでも弱いので、業想念を否定するとともに本心を肯定することによって、信念としては最大の力を発揮できるようになるのです。そこで五井先生は、「いかなる苦悩も消え去るのである」と、まず業想念を否定する信念の言葉を書いてから、その後に「今から善くなるのであるという善念を起こす」と、本心の善を肯定する信念の言葉を書いているのです。

[正しく強い信念を起こすには]

さてそこで、「悪い方へ考えてしまうような時に、『消え去るのである』という“強い信念”を念力的にならずに起こすにはどのようにすればよろしいのでしょうか？」というご質問にお答えすることにしましょう。

五井先生から「いかなる苦悩も必ず消えるものである」と教えられて、素直にその言葉を信じられる人は幸いな人ですが、そうした素直な人は滅多にいるものではありません。現実には病気は続いているし、貧困の生活も続いているし、苦しみや悩みが続いているし、不幸な環境から逃れることができないという人は、どうしても悪い方へ悪い方へと考えがちで、「今の苦悩は消え去るのだ」という言葉を自分に繰り返し言い聞かせても、強い信念を持ち続けることは容易なことではありません。そこで、正しく強い信念を持つには一体どうしたらよいのかという問題になってきます。その正しく強い信念を持つには、やはり守護の神霊への祈りが必要であり、守護の神霊への祈りから自然に正しく強い信念が生まれてくるものなのです。

正しく強い信念を持てるようになるためには、このように祈ればよろしいのです。

五井先生が教えて下さった祈り方を紹介しましょう（次の中から好きな祈り方を選んで下さい）。

[業想念否定の祈り]

守護霊さま、不安な思いをお消し下さい。
守護霊さま、悪い方へ考えてしまう思いをお消し下さい。
守護霊さま、〇〇〇の思いをお消し下さい。
守護霊さま、〇〇〇の思いが消えますように。
守護霊さま、〇〇〇の思いを消し去りたまえ。
守護霊さま、〇〇〇の思いが消えますように、お願いします。
守護霊さま、浄めたまえ。

[本心肯定の祈り]

守護霊さま、今から私の運命が善くなりますように。
守護霊さま、今から善くなりますように。
守護霊さま、私の運命を好転せしめたまえ。
守護霊さま、私の天命を完うせしめたまえ。

守護霊さま、神の子としての完全円満を現したまえ。

守護霊さま、私の本心を一日も早く現したまえ。

守護霊さま、明るく愛深い私にならしめたまえ。

[業想念否定と本心肯定を合わせた祈り]

守護霊さま、業想念を一日も早くお消し下さって、私の天命を完うせしめたまえ。

守護霊さま、業想念が消えて本心が現れますように。

[世界平和の祈りから正しく強い信念が生まれてくる]

このように祈っておりますと、「ああ、守護霊さまによって不完全な業想念は浄められてゆくんだなあ。業想念はいつしか必ず消え去るものなんだ」と強く実感できるようになります。「業想念は消え去るんだ、消え去るんだ」と暗示のように自分に無理に言い聞かせなくとも、このように守護霊さまに祈っていれば、正しく強い信念が自然と湧き起こってくるのです。

「神さまは大愛であるのだから、神さまにお任せしている私を決して悪いようにはなさない」と神さまの大愛を信じるのが根本であるのですが、神さまの大愛を信じる信念も、守護霊さまにこのように祈っているうちに自然に身についてくるものです。「今から善くなるのである」という善念も、守護霊さまに本心肯定の祈りを祈っているうちに自然に湧き起こってくるのです。

次に、「強い信念とはどのようなものをいうのでしょうか？」というご質問にお答えしますと、こうした祈りから生じてくる正しい信念は、鉄に磁力が帯びるように私たちの全身に強い信念の磁場を作り出してゆき、周囲の人々にまでその信念の磁場が伝わってゆくのです。「必ず善くなる」という強い信念が次第に高まってゆきますと、現実には不完全な世界にいても、自分の心は、「必ず善くなる」という心境を超えて、「私は既に完全円満な世界に住んでいる」という理想郷に住めるようになってくるのです。

「世界平和の祈り」を祈っておりますと、「業想念は必ず消え去るのである」という強い信念も、「今から善くなるのである」という善の強い信念も、自然に持てるようにもなります。「世界平和の祈り」を祈っておりますと、「世界は平和になる」という信念が生まれ、次に「世界は平和になる」という信念をもって「世界平和の祈り」を祈っておりますと、いつのまにか「世界は平和である」という絶対的な境地に到達している自分を発見するようになるのです。そこで「世界は平和になる信念で世界平和の祈り」と私は提唱しているのです。教義の最後に、「世界平和の祈りを祈り続けてゆけば、個人も人類も真の救いを体得できるものである」とありますが、私も真の救いを体得できた一人であるのです。